



2019年 9月 18日

FAX飛躍

JR東労組東京地本青年部

JR東労組青年部第34回定期委員会開

● 修正動議

報告その6

運動方針（案）の業務課題に関する修正動議

【修正動議の内容】

「変革2027」に基づいている、「電気部門の変革2022」「駅」の変革と新たな顧客接点づくり(旅行業部門の今後の方向性)「新たなジョブローテーションの実施について」「ワンマン運転の拡大について」などの会社施策に対して、安全・技術継承・異常時対応の維持・強化を軸にした職場と、会社側のスケジュール感にとらわれず職場の声をもとに健康と働きがい確保できる施策づくりを目指します。青年部として譲れない青年部要求を掲げ、団体交渉を通じた要求実現に向けての職場討議を重視します。また、業務課題を通じた組織強化と拡大を青年部から最先頭で担います。

賛成（要旨）

八王子地本より選出の委員

- ・「変革2027」に基づく各種施策は将来の働き方、職場環境、労働条件が大きく変わるものであり重要な内容です。とりわけジョブローテーションについては提案以降、苦勞しながら様々な議論を積み上げてきました。職場では「会社の説明を聞いたが何のためにこの施策を行うのかわからない」「生活設計が立てられず、家を買う事もできない」「経験労働は安全にとって不可欠。それを無視した最長10年で異動の部分に反対しないのは間違っている！」というような声が出ています。社員説明会で少しでも踏み込んだ質問をすれば会社は「わからない」「決まっていない」と繰り返すばかりであり、これでは青年部員の理解と納得感を得る事は出来ません。
- ・会社のスケジュール感に沿ってしまっているような団体交渉では職場での討議時間も十分確保できず、組合員・青年部員の不安をより煽っていることにもなっています。一番大事であるはずの「安全」は守られず、ひいては自分自身の「命」を落とすような事象が発生する可能性が極めて高くなります。特に青年部は約30年働きます。まさに矢面に立たされるのです。
- ・施策すべてに反対ではありません。しかし、どうしても譲れない項目はあります。要求の根拠が交渉で深まらないこと、各施策の交渉においてスケジュールを強く意識していることで職場のたたかいとの連動が困難になっていることに青年部員は強い危機感を感じています。危機感を解消するためにも職場討議の時間を十分に確保し、職場の青年部員の声を確実につかむことが今求められています。

反対（要旨）

横浜地本より選出の委員

- ・この間、横浜でも様々な施策に真剣に向き合ってきた。意見交換会の場で本部青年部から退席を命じられたと嘘の情報を流し、果たして本当に組織拡大をする気はあるのか？ 今回、動議を提出して良いことを言っている様に聞こえますけど、そのときから何も変わっていない。
- ・会社はスケジュール感をもってと何回も言っている。組合はスケジュール感をもってやっていくべきであり、それを国鉄改革から学んだのでないか。安全、技術継承、若者が希望を持てる施策をつくりだすために意見交換会で言ってきましたよ。動議の内容は必要ありません。